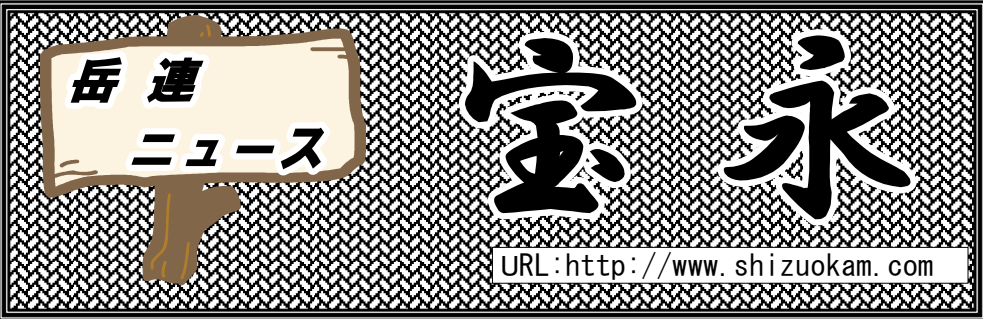




静岡県山岳連盟
〒420-8076
静岡市駿河区八幡3-1-17
TEL (FAX) 054-288-7512
編集発行/総務委員会
平成26年9月8日発行



第35回東海ブロック大会山岳競技(岐阜県岳連主催)が7月19日〜20日、リード競技は、施設の関係で富山県の桜ヶ池クライミングセンター(H12年の富山国体の実施会場)、ボルダリング競技は高山市のボルダリングジムのハイマウントで実施された。成年女子・少年男子・少年女子の3チームが参加した。それぞれ1・2・1枠の代表枠を目指して熱戦が展開された。1日目のリードは、正面の可動壁を使い、6分

入っていく部分が核心。静岡は、吉田がよみなく高度をのびし完登。伊藤は終了点の4手ほど手前でフオールした。次に登場した岐阜県が両選手とも完登したため、2位。少年女子は推定12cdで傾斜の無い下部では所々がバランスの悪いムーブが登場するが、ルートの核心は上部の5mで、静



間の競技時間で行われた。少年男子は、推定12d、13aでデリケートな下部を10mほどこなした後、傾斜の強い5mの部分に(リード少男吉田選手)



2日目のボルダリング競技は、4課題を2課題(ボルダ成女渡辺選手)

東海ブロック大会結果				
		リード順位	ボルダ順位	総合順位
成年女子	静岡	2	2	2
	愛知	3	3	3
	三重	不出場		
	岐阜	1	1	1
少年男子	静岡	2	2	2
	愛知	3	3	3
	三重	不出場		
	岐阜	1	1	1
少年女子	静岡	2	3	3
	愛知	3	2	2
	三重	1	1	1
	岐阜	4	4	4

岡の北脇は傾斜の強い部分に入り数手で、中村は終了点手前5手でフオール。しかし、昨年度本国体優勝チームの三重は両者とも余裕を持って完登したため、2位。成年女子のルートは、少年女子より5度傾斜を落とした同ルートで行われ、渡邊は終了点4手前で惜しくもタイムアウト。望月は、その1手前まで。個人順位点では岐阜と並んだが、岐阜に完登者が出たため、2位。

成年女子は、望月の3完登目前でタイムアウトがあり、岐阜に一步及ばず総合2位となり、国体出場を逃したが、来年に向けて期待を持てる成績であった。2位で本国体出場を手にした少年男子には、本国体での入賞を期待したい。ただ、少年男子のこの学年が卒業する来年度は、非常に苦しい戦いとなる。改めて次の世代の育成が急務となる。成年女子は来年度、代表が2枠になる。静岡国体以降出場のない代表枠を獲得し活躍して欲しい。(諸戸)

少年男子国体出場へ 東海ブロック大会第2位

6月常任理事会

6月16日(月) 静岡労働会館で常任理事会が開催された。
出席者、滝田、塩沢、木ノ内、出利葉、前川、豊田、工藤、松永、増田、大石、長野、坂田、諸戸、内海、田中、清水、高橋内山、計18名
●会議に先立ち木ノ内理事長から、通常総会が無事終了し常任理事の方々の協力にお礼のことがあった。
●滝田会長挨拶
26年度役員改選後初めての常任理事会、今年度の行事計画等いろいろあるので確り決め、実施してください。
●平成26年度新役員の報告
1 報告事項
(1)各委員会の報告について
① 日本山岳協会 指導委員会総会の報告。
6月7日(土)・8日(日) 東京 晴海・登攀講習会・氷雪技術講習会及び主任検定員養成講習会開催の実施報告があった。
② 遭難対策委員会 特になし (堀内)
③ 海外登山委員会 6月14日、15日 日山協国際委員会総会兼第33回海外遭難対策研究会が長野県大町市の山岳総合センターで開催された。
国際山岳連盟(U I A A) アジア山岳連盟(U A A A) 国際スポーツ山岳連

・SC指導者養成講習会の主管をブロックにするよう話があった。SC(スポーツ・クライミング)指導員資格は、29年度から国体監督に必須資格。受講から資格取得から監督までに3年かかる。
・指導員規約の改定が一部あり。
・「安全登山実践講座」(旧名 ハイキングリーダー)について説明があった。
・研修会では、スタンディング・アックス・ビレイ手順の解説があった。
○その他
・岐阜県委員から、来年から北アルプスの計画書、事前提出の義務化。違反者は5万円以下の過料。
・個人会員実施県の例、東京都・大坂府・神奈川県・福井県 (工藤)
② 遭難対策委員会 特になし (堀内)
③ 海外登山委員会 6月14日、15日 日山協国際委員会総会兼第33回海外遭難対策研究会が長野県大町市の山岳総合センターで開催された。
国際山岳連盟(U I A A) アジア山岳連盟(U A A A) 国際スポーツ山岳連

盟(IFSC)等が議題になった。
11月22日〜26日 第38回自然保護委員会総会と連携して広島でアジア山岳連盟(U A A A) 創立20周年記念シンポジウムを開催(出利葉)
④ 国体委員会 特になし (諸戸)
(2) 各委員会の計画
① 海外登山委員会 海外登山講習会について説明があった
(3) h26年度のスポーツフェスティバル
① 最終計画の報告があり、Aコースの一部を変更した。(小田)
(4) 東海ブロック大会
① 岐阜県担当 7月19日(土) リード競技 富山県南砺市 桜が池クライミング会場
20日(日) ボルタリング競技 高山市 ハイマウント会場 (諸戸)
(5) 少年・少女登山教室
① 8月1日(金)〜2日(土) 募集人員30名(親子15組)
募集 静岡新聞に掲載予定。(塩沢)
(6) 一般向け登山教室
① 8月2日(土)〜3日

(日) 鹿島槍ヶ岳 西部中心に募集、定員15名で現在14名。引率者の協力をお願いすることがあります。(小田)
(7) 平成27年版県岳連カレンダー
① 例年通り作成する。今年は、300部とする。
次回(8) 常任理事会にて配布(滝田)
(8) 個人会員制度の検討
① 岳連の団体会員の減少(高齢化?)に対処するため、個人会員制度の導入を検討。小委員会を設け、検討したい。(滝田)
(9) その他
指導員検定 希望者7名、10名 アルパイン今年の冬山講習会で実施予定(工藤)
(10) 宝永9号発行。
(11) 講演会(静岡市岳連主催) 7月26日「あざれあ」講師望月将悟氏 パンプレット配布。(松永)(前川)
個人会員制度
検討委員会
個人会員制度の検討委員会が6月30日労働会館

で委員7名(2名欠席)が出席し開催された。
個人会員制度は、所属団体数の減少から組織の拡充を図ることにある。山岳会への入会抑制に繋がる懸念もあるが、入会への誘導も期待できる。19の都道府県に制度があり、制度化の方向で進めることにした。
委員会では協議、提案された主な内容は次のとおり。
遭難事故の対応は保険に強制加入させ、山岳遭難時には相談に応じるとした。
講習会等の開催を増やすことが会員加入の促進になるが講師不足。講師になる指導員等を探す必要がある。
事務量増への対応はhpを活用し、講習会等は各委員会に対応し、登録や会費等は事務局で対応。現在行なっている講習会を一般向け用の講習会に組立てられないか。
所属のないスポーツクライミングの指導者を個人会員制度で岳連組織に組み込む方向で検討する。常任理事だけでなく、指導員の協力を得る必要

がある。
個人会員制度を導入するには規約の改正が必要になる。今後1年かけて制度設計をし27年度の総会で審議し導入する。(木ノ内)
編集後記
最近富士山に関する話題が多い。遭難防止対策から登山届の条例化、救助費用の個人負担の条例化、夏山以外の安全登山のガイドライン、入山料の問題など世界文化遺産の登録を受け登山者増が見込まれることから遭難防止や環境保全の観点から検討されている。これらに関しては登山者や一般市民が納得できる内容で検討されることを切に望む。
富士宮西高の女子チームが全国総体で優勝した。マイナーな競技で報道も小さめだが全国制覇は実に素晴らしい快挙だ。岳連にとつても誇らしいことである。
西高女子チームのみなさんおめでとう、そしてありがとう。
(TK)

第2回夏山登山教室開催

大展望と高山植物に大感動

鹿島槍ヶ岳に登頂

指導委員会では、昨年に続いて、第2回登山教室を実施した。内容は、昨年同様、1回の練習登山と2回4時間の座学をセットにして募集するもので、メインの山行を今年は、爺ヶ岳・鹿島槍ヶ岳の縦走とした。練習登山は、昨年と同じ、安倍奥山伏岳である。

昨年は広報に苦勞し、わずか8名の応募しか得られなかった。その反省に立ち、自治体広報紙に掲載してもらったところ、



幸い、13名の参加者があった。募集人数は15名だったが、実際に行って見ると、安全面その他から、これくらいがちょうどいいところだろうという印象であった。



1回目の山伏岳は西日影沢コースから往復した。山中では読図の実習を行った。今年の参加者は、全員が県西部地区の方々だったせいか、山伏も皆初めてということだった。山はそれなりに経験している人が多かったが、きちんとした読図はやはり余り経験がないようであつた。

た。西日影沢沿いのルートで、周囲の地形と地形図とを照合する作業をみっちりとした。鹿島槍ヶ岳は天候もよく、白馬岳から、剣岳、槍ヶ岳・穂高岳まで広がる大展望と咲き乱れる花々に、皆さん大感動であった。

座学は、「夏山の基本」とで、周囲の地形と地形図とを照合する作業をみっちりとした。鹿島槍ヶ岳は天候もよく、白馬岳から、剣岳、槍ヶ岳・穂高岳まで広がる大展望と咲き乱れる花々に、皆さん大感動であった。

JOCジュニアオリンピック 中村4位 ユースA女子リード

第17回JOCジュニアオリンピックカップ大会が8月2日から4日にかけて富山県南砺市桜ヶ池クライミングセンターで開催された。大会会場は大自然に囲まれ、空気の澄んだ所である。幸い今年は、天候にも恵まれ3日間とも晴れの日が続いた。この場所、全国から選ばれた選手たちが熱い戦いを繰り広げるのである。今年度、静岡県勢として大会に出場したのは、男子ジュニアの部、吉田隣生（浜松日体）、伊藤優輝（浜松日体）、鈴木正信（浜松日体）、ユースAの部、中西亮介（浜松学芸）、山根翔太（浜松日体）、女子ジュニアの部、村野加奈（富士宮西）、女子ユースAの部、北脇順子（浜松日体）、中村祐香梨（浜松日体）の計8名である。クライミング歴の長い者から短い者まで選手の層はさまざまであるが、皆一様に緊張している様子が見え、予選は2日と3日に1本ずつフライング方式で行われ、選手たちは他選手の登りを見て、オプザベーションを十分に行ってから本番に挑む。予選2本の成績で決勝進出者が決まるため、結果が出るまでの時間は、選手を含めその場に居る全員にとって長く感じるものだ。その結果で選手たちは一喜一憂するのであるが、こういった経験をするのも大会に出場する醍醐味である。

今年度は静岡県勢の中から、決勝進出を果たしたのは吉田と中村の2名であった。決勝はオンサイト方式で行われる。選手とコミュニケーションをとることはできないが、観客席から声援を送る仲間たちの姿が印象的であった。吉田、中村両選手とも自身の力を信じて臨んだ決勝戦。吉田は6位、中村は4位という成績で幕を閉じた。

それぞれの練習成果が存分に発揮されたことだろう。それは、惜しくも予選で敗退した選手たちにも同じことが言えるのではないだろうか。特に中村は予選の順位から大きく飛躍した結果となった。こうして「ガンバ」の声援と自分の力を信じて戦った一夏の大会も無事に終わった。来年はどのような戦いになるのか、今から楽しみである。

静岡県選手の結果					
ユースA男子			ユースA女子		
山根 翔太	32位	浜松日体高	中村祐香梨	4位	浜松日体高
中西 亮介	47位	浜松学芸高	北脇 順子	16位	浜松日体高
ジュニア男子			ジュニア女子		
吉田 隣生	6位	浜松日体高	村野 加奈	14位	富士宮西高
伊藤 優輝	11位	浜松日体高			
鈴木 正信	12位	浜松日体高			

（森彩加）

全国高校総体 富士宮西全国制覇 女子

全国高校総体登山大会が8月8日～12日に神奈川県箱根山塊を会場として行われた。

静岡県からは藤枝東高校が男子、富士宮西高校が女子として出場した。

生憎の天候で、初日を除きすべて雨にたたられた。特に台風11号の影響を受け、予定された3日間の登山行動のうち中日（10日）が中止となった。残る2日も雨の中の登山となり、ぬかるんだ急な下りでスリッパが続出した。ある意味、様々な悪条件を臨機応変に乗り切る本当の意味での登山に対する総合力が試されたといえる。

その中で、富士宮西高校女子が100点満点中99.4点という稀に見る高得点をあげ、2位に0.6点の大差をつけ3年ぶり4回目の全国制覇を成し遂げた。男子も藤枝東が97.9点で5位入賞を果たした。2位とはわずかに0.4点差であった。

東海ブロック 正副会長理事長会議

東海ブロックの正副会長理事長会議が7月19日岐阜岳連の担当で、飛騨市の「季古里」で開催され、滝田会長、木ノ内理事長が出席した。10名の出席者が各県の取組状況、今年度の事業計画と課題

- （静岡）6位 韮崎（山梨）
■女子 1位 富士宮西（静岡）2位 基町（広島）3位 大村（長崎）4位 城ノ内（徳島）5位 盛岡第一（岩手）6位 宮城第一（宮城）（清水）

など話を合した。岐阜岳連からは、岐阜県側の北アルプスの登山者に登山届の提出を義務づける罰則つきの条例案が、岐阜県議会で可決され、今年12月から施行されることになったと報告

南ア夏山相談所開設

畑薙臨時駐車場

南アルプスの夏山相談所が、7月12日から8月31日までの51日間、畑薙臨時駐車場で開催された。県遭対協からの要請により、県岳連から指導員を派遣し井川山岳会の会員と静岡市岳連

があつた。登山届を義務化する条例は、富山県と群馬県に続き3例目となる。背景には岐阜県内で昨年の遭難件数が過去最多となる93件114人。うち6割近くが北アルプスで占め、遭難防止を図るため条例の制定にいたつた。

今年から個人会員制度を発足させた。所属団体の減少から組織の拡充を図るため今年の総会で承認されたという。基本的には地元の山岳会に入ることだが、それが難しい場合は個人会員に登録というスタンスである。

愛知岳連からは従来の一般向け登山教室は有名でできなかったことや天候不順が続いたことなどで、昨年過去最高の登山者数であったのが今年は大幅に下回った。

事故は、聖岳の登山口の上部で行方不明者があり、茶臼岳や聖岳で転倒するなど中高年登山者の事故が多かつた。（滝田）



な山に登るのが目的であつたが最近では近くの低山で、地図の見方、歩き方などの登山技術を教えていく形態に変えた。確保訓練や読図講習会は近くの公園で実施している。個人会員制については検討の方向で進んでいる。

三重岳連からは4回目となる山登りベシック塾は年6回2会場で実施したが津会場は定員50名にに対し応募が多く100名に広がったがまだ足りなかった。広報はパンフレットを、新聞、テレビ、ラジオなどの報道機関に依頼した。当日は報道関係者が取材に来た。今年は、三重県遭対協との共催にしたことにより警察、消

防、行政機関の方が参加しやすくなったことも参加者の増大に繋がった。個人会員制については、「かもしかクラブ」が連盟内にあり、加入すれば連盟の行事に参加でき、指導を受けることができる。

5月連休前に警察、消防と合同で鈴鹿山系の登山口で安全登山啓蒙の一環として登山者にアンケートを実施した。静岡県岳連からは、25年度の事業の報告を行い、特に公益事業としての少年少女登山教室の富士登山、一般向けの登山教室の白馬岳登山についての説明をした。個人会員制度の導入について来年度実施の方向で委員会を立ち上げた。その他、昨年出された、夏季以外の富士登山における安全確保のためのガイドラインについて計画書の提出、携帯トイレの持参等の課題を提起した。富士山における登山届の条理化、救助費用の自己負担の条理化など、地元からの要望があると情報提供した。（木ノ内）